

「中海の利活用に関するワーキンググループ」の検討状況

平成24年8月28日

1. ワーキンググループの概要

- (1) **趣 旨**：関係機関が集まり、ともに未来に向かって中海の豊かな自然の恵みを享受・活用し継承していくための取組を考え、「利活用アイデア」として提案をまとめる。
- (2) **構 成**：鳥取県 企画課 水大気環境課 西部総合事務所県民局 生活環境局 県土整備局
 島根県 政策企画監室 環境政策課 自然環境課 高速道路推進課
 中国地方整備局 出雲河川事務所
 中国四国地方環境事務所 米子事務所
 米子市企画部企画課 境港市総務部地域振興課
 松江市政策部政策企画課
 安来市市長室企画調整課
 (注：下線は事務局。内容により上記以外の部課も適宜参加)

2. 開催経過

(1) 平成22年度

○OWG打合せ会

日時：平成22年6月22日

内容：設置の趣旨、参加する機関・部署、検討の方向性等について確認、意見交換。

○第1回WG

日時：平成22年9月2日

内容：設置要綱を確認。検討の方法等を協議、まずは検討の柱5つを以下のとおり設定。

(テーマ：一体感の醸成～中海でつながる～ 水面のスポーツ利用～中海に親しむ遊ぶ
 海藻の利用～中海で循環する～ 食文化～中海の恵みをいただく～
 環境学習～中海を知る～)

○第2回WG

日時：平成22年11月8日

内容：現在取り組まれている既存事業等を整理。

検討の方法を確認し、テーマ毎にアイデア出しの作業へ。

○第3回WG

日時：平成23年3月17日

内容：各機関からの利活用アイデア(たたき台)を集約。内容を吟味し、方向性について確認。

(2) 平成23年度

○第4回WG

日時：平成23年6月29日

内容：利活用アイデア(たたき台)について、既存事業・既存団体との関わりや実現可能性、経費面など、個別具体的な内容について検討し、効果・波及度、実現性が高いもの(既に実施中を含む)などを抽出。

○第5回WG

日時：平成24年3月14日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

(3) 平成24年度

○第6回WG

日時：平成24年7月9日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

中海の利活用アイデア

実施中・検討中のアイデア

- 【湖面湖岸の利用】 …… ① 中海周遊サイクリングの推進
(中海周遊コースの設定など環境を整備し「サイクリングのメッカ」としてイメージアップを図る)
- 【湖面湖岸の利用】 …… ② 中海周遊「EVカーでエコツアー」の推進
(充電インフラの整備等に取り組み安心して走行できるルートを実現、「環境にやさしいまち」をPR)
- 【藻の利活用】 …… ③ 中海の「藻」の活用
(海藻を回収して産業などへ利用することにより中海の藻の循環システムを構築する)
- 【食文化】 …… ④ 「(仮)中海エシカルフード」の開発・提供
(中海産品の復権を目指して公共施設等で中海メニューを提供する)
- 【環境教育】 …… ⑤ ラムサール条約普及啓発の取組
(中海の豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる取組を進める)
- 【一体感の醸成】 …… ⑥ ポータルサイトによる情報発信
(ここを見れば、中海央道湖が「わかる」「保全に参画できる」、情報発信の拠点づくり)
- 【一体感の醸成】 …… ⑦ 「日本風景街道」の推進
(央道湖・中海・大山圏域の「日本風景街道」活動を県境を越えて推進する)

構想段階のアイデア

- ⑧ 「中海憲章(仮称)」の制定
- ⑨ 中海ワイズユース住民活動推進プロジェクト
- ⑩ 環日本海国際トライアスロン in NAKAUMI
- ⑪ 環境負荷の軽減行動の指標化 ~ 私たちにできること ~
- ⑫ マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり
- ⑬ ECOシップコンテスト in NAKAUMI
- ⑭ 中海周遊船の運航支援
- ⑮ 高等教育機関と連携した人材育成

①中海周遊サイクリングの推進

提案主旨

景観や観光資源等に優れた中海周辺を、地元住民から海外の来訪者までがサイクリングで楽しめるよう、周遊コースを提示するなど、豊かな水辺環境を実感できる環境を鳥取・島根両県で一緒につくり、中海が「サイクリングの一大メッカ」となることを目指す。（エコな乗り物「自転車」と、水質環境にかかわりの深い「中海」を繋げ、圏域のイメージアップを図る）

提案内容

- 安全で楽しく走れるコースの設定
- コースのマップ化とPR
- 中海を楽しむための空間づくり
- 走りやすい環境づくり
- ギブアップシステムの構築
- 利便性のある環境づくり
- 記念イベントの開催や大規模大会の誘致なども念頭に

取組状況

- ・H22.12 「サイクリングロード整備検討会」（鳥取県組織）を設置
- ・H23.10 「大山中海サイクリングマップ」を試作・公表。
- ・H24.3 「宍道湖・中海サイクリングロード連絡調整会議」（島根県組織）を設置
- ・H24.6 専門家による検討中ルートの試走（島根県）



- ・H24.秋頃 島根県のルート案を提示
- ・以後、両県でコースの設定・調整、利用環境の整備

今後の取組の方向

コース設定、サイクリングロードとしての環境整備（サイン、道路施設修繕など）、マップの作成、PR活動、イベントの開催などの対応のため、国、両県、関係市相互の更なる連携強化を図り進める。

主な関係主体

- 鳥取県西部総合事務所（県民局、県土整備局）
- 島根県（土木部）
- 中海沿岸市
- ほか

②中海周遊「EV車でエコツアー」の推進

提案主旨

中海周辺エリアにおいて電気自動車(EV車)の充電施設を整備するなど、中海の水辺環境を満喫しながら安心してレンタルEV車等で走行・周遊できる環境づくりを推進する。

中海の水質という環境問題を身近に持つこの中海圏域で、率先して電気自動車(EV車)の普及促進に取り組み、「環境にやさしいまち」としてPRを図る。

提案内容

- 急速充電器などインフラ整備・・・中海圏域を利用者が安心して走行できるよう、沿岸4市の主要地点に設置
- レンタカー、カーシェアリングによる利用システムの構築・・・各市で公用車として使用しているEV車を、閉庁日に住民や観光客にレンタル等
- 普及啓発・PR・・・中海の水辺環境を満喫しながら周遊できるドライブルートの設定
ホームページ、ブログ等を活用した情報発信



充電の様子（皆生温泉観光センター）

取組状況

H23年度

- ・EV車(閉庁日貸出公用車)の導入 9台
旧中海市長会 6台
(米子市2台、境港市1台、松江市2台、安来市1台)
松江市単独 3台
- ・H23.10.15より貸出開始
レンタル実績
66回(4市計:H23.10.15～H24.6末)
- ・H23.11 米子市がカーシェアリング社会実験開始
商店街と市民等でEV車を共同使用(非会員制)
- ・急速充電器の設置(6カ所)
旧中海市長会:4カ所
(皆生温泉観光センター、境港市役所、
松江市役所、道の駅「あらエッサ」)
その他:由志園(松江市)
鳥取県西部総合事務所(米子市)

H24年度

- 《中海・宍道湖・大山圏域市長会》
 - ・ドライブマップの作成(観光施設、観光案内所等に配架)
 - ・圏域で開催される環境フェアに出展して、試乗体験を行う
などして取り組みをPR
- 《中海沿岸市》
 - ・閉庁日のEV車レンタルを各市の事業として継続
 - ・米子市のカーシェアリング社会実験を引き続き継続(EV車3台)

今後の取組の方向

市長会と両県および関係市で連携を取りながら、取り組みの普及啓発を行う。

主な関係主体

中海・宍道湖・大山圏域市長会
関係行政機関 民間事業者等 ほか

③中海の「藻」の活用

提案主旨

昭和30年代まで肥料や食用加工品として採取されていた海藻を「未活用資源」と捉え、新しい産業へ結びつける。回収・湖外への搬出により水質の浄化につなげ、加工して有機肥料など産業等の原材料として使用、中海の「豊富な栄養」を受けて育った農産物をいただく、といった新しい産業の創出と水質改善をともに適えた資源循環の仕組みを構築する。

提案内容

- 藻の回収……海藻刈りによる栄養塩循環システムのモデル構築
- 藻の活用……海藻農法による農業再生プロジェクト
- 活用の普及……藻の回収等住民参加型イベント、旧加茂川藻刈り体験
- 調査研究……藻の産業利用に係る成分分析、分布・現存量調査
海藻肥料の施用効果検証
- その他……海藻に関する意見交換

取組状況

【海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業 ：両県連携事業】

H23 NPO法人自然再生センター（島根）、海藻農法普及協議会（鳥取）に委託し実施。343トン回収し利活用業者へ引き渡し。

H24 引き続き2団体に委託実施。

【海藻農法による農業再生プロジェクト：鳥取県】

H23 海藻農法導入農家50農家、導入耕地面積40ha以上
野菜市の開催、セミナー説明会の開催

H24 引き続き実施

【藻の回収参加型イベント：島根県】

H23 11月に本庄町で約30名の参加で藻刈り体験、水環境説明会、中海の幸試食会を実施

H24 両県共同で実施

【旧加茂川藻刈り体験事業：鳥取県】

H23 7月「クリーンアップin加茂川2011」に、市民、ボランティア団体、行政の約200人が参加

H24 引き続き7月「クリーンアップin加茂川2012」で実施



【調査研究：両県】

H23 藻の分布調査、現存量調査、成分分析

H24 新たに飼料化試験を実施予定（島根）
中海水産資源生産力回復調査（鳥取）

【海藻肥料の施用効果検証：鳥取県】

H23 白ネギ、トマト、サツマイモへの施用効果の検証

H24 引き続き実施

今後の取組の方向

引き続きNPOと両県が連携しながら、肥料化に向け回収コスト及び製造コストの削減検討、および販路の拡大とブランド力アップを図る

主な関係主体

鳥取県（生活環境部、農林水産部、西部総合事務所）

島根県（環境生活部、農林水産部）

海藻農法普及協議会、NPO法人未来守りネットワーク、

NPO法人自然再生センター、中海自然再生協議会 など

④「(仮)中海エシカルフード」の開発・提供

提案主旨

かつて地中海で多く水揚げされ、地域の食文化を形成していた地中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、食文化を復活させる。提供(食材・加工品)価格に「中海環境募金」として数%の一定額を上乗せし、NPO活動等への支援金とするなど、環境意識の醸成と、中海産の恵みを循環利用する取り組みとして、中海版『エシカルフード』の展開を目指す。

提案内容

- 特徴的な「中海産品」について情報収集
- 関係する民間、NPO等との意見交換
- 県庁に入居する食堂事業者、学校給食への働きかけ

取組状況

【中海食材の提供：H23島根県 H24両県連携事業】

H23 島根県庁食堂で中海の食材を使ったメニュー案を策定(未提供)。

H24 引き続き、両県の共同提供について検討。

H24.6.24「中海オープンウォータースイム2012」参加者へ提供
提供メニュー：アサリ汁、オゴノリゼリー

「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業共同体(以下、「共同体」)が主体となり、鳥取・島根
広域連携協働事業として実施

(参加者114名(鳥取・島根77名、その他37名))

【中海食材の開発に関連する取組】

○スジアオノリの養殖・加工：H23島根県 H24両県連携事業

H23 NPO法人自然再生センター(島根)が島根県と松江市の協力の下、春と秋の2シーズン実施。

延べ参加者100名程度。

H24 「共同体」が主体となり、規模を拡大して実施。

～エシカル(ethical)とは～

「倫理的な」「道徳的な」という意味だが、最近では「地球環境や社会に配慮している」という意味で使用。



オゴノリゼリー

- 提供施設と提供メニューの決定
- 取り組みのPR(創作料理コンテスト、イベント等での提供)
- 食材への「環境募金」等の検討

○アカガイ(サルボウ)復活への取り組み：両県

H23 稚貝放流→本庄水域はほぼ全滅(夏場の貧酸素の影響か)

H24 放流場所の検討を行い、H24.3,6,7月に約210万個体放流。
モニタリング中。

○伝統食文化伝承：H23島根県 H24両県連携事業

H23 NPO法人自然再生センター(島根)が地元(東出雲町)の住民の方の協力のもと「ゴズの昆布巻き」を作成

H24 「共同体」が主体となり11月頃調理方法をDVDに記録保存するとともにHPでPR

今後の取組の方向

今後も引き続きNPO、両県、関係市との連携を図り、各種取り組みを推進する。

主な関係主体

「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業共同体

NPO法人中海再生プロジェクト(鳥取) NPO法人自然再生センター(島根)

鳥取県西部総合事務所

島根県(環境生活部、農林水産部、政策企画局)

⑤ラムサール条約普及啓発の取組

提案主旨

鳥取・島根両県で、貴重な財産である中海・宍道湖を守り、有効に活用する意識を醸成するため、地域住民や次代を担う子どもたちの参加による普及啓発事業を実施する。

提案内容

ラムサール条約登録5周年記念事業(H22)で得たネットワークや環境意識を単発で終わらせることなく、両県連携により継続して他地域との交流、環境教育に取り組んでいく。

○こどもラムサール交流

次世代の湿地保全を担うリーダー育成を目的に、他地域の子どものたちと交流・学習する。

○ラムサール条約リレーシンポジウム

両県でリレートーク的にシンポジウムを開催する。

取組状況

講演会、自然体験、バスツアーなどを実施。

【H23年度】 延べ約700名の参加

- 8/12 「古代・昔・ちょっと昔の中海を感じよう！」(中海及びむきぼんだ史跡公園)
- 9/25 「宍道湖・中海の自然とその歴史」(道の駅 秋鹿なぎさ公園)
- 10/8～9 「こどもラムサール全国湿地交流会」(米子水鳥公園)
- 11/13 「宍道湖・中海の自然とその歴史を巡る」(バスツアー)
- 1/14 「中海の水中の様子や魚・貝・水鳥を見てみよう！」(米子水鳥公園)
- 2/18 「中海・宍道湖を学び、楽しもう！さかなクンとともに」(くにびきメッセ)

【H24年度】

- 7/27 「楽しく学ぼう！～宍道湖・中海のつながり、歴史、恵みを感じる～」
(八雲立つ風土記の丘 ほか)
- 9月下旬 「ゴズ釣り、ゴミ拾い等」(宍道湖畔)
- 9月 「こどもラムサール交流」(谷津干潟(千葉県習志野市))
- 10月 「こどもラムサール交流」(円山川(兵庫県豊岡市))
- 11/10 「マンガ・イラスト教室」(米子水鳥公園)
- 11月中旬 「魚と人をつなぎなおす」(宍道湖畔)
- 12/15 「両県合同シンポジウム」(境港市シンフォニーガーデン)



H23年度 「こどもラムサール全国湿地交流会」

今後の取組の方向

NPO等との連携を進め、引き続きラムサール条約関連普及啓発を継続して取り組む。

主な関係主体

鳥取県(生活環境部)
島根県(環境生活部)



⑥ポータルサイトによる情報発信

提案主旨

中海・宍道湖にかかわる環境活動を中心とした行事やイベントなどの情報を集約し、また発信するための拠点として「ポータルサイト」を立ち上げる。

提案内容

○応援団を会員として、中海・宍道湖関連催事の情報集約と発信の拠点とする。

⇒ラムサール条約登録5周年記念事業を契機に、応援団として賛同を得た企業等163社とつながり、更なる広がりを作る。

⇒メール配信サービスを開始し、県民参加の活動の輪を広げ、楽しみ、自然再生につなげる。
(アダプト、海藻堆肥、一斉清掃、アマモ造成、稚魚放流、エコセーリング 等)

→→→ これをみれば、中海の関連情報がわかる、参加できるサイトを目指す

取組状況



・H23.10 12 ポータルサイト「中海・宍道湖情報館」の試験運用
正式運用開始

・現在のコンテンツ

- ①ニュースリリース
- ②イベントカレンダー
- ③中海・宍道湖のご案内(ラムサール条約について、水質と浄化の取り組みなど)
- ④加入団体のご紹介
- ⑤リンク

今後の取組の方向

当ポータルサイトの周知を図るとともに、加入団体を増やし、それに伴う情報量の充実をはかる。

主な関係主体

鳥取県(生活環境部)
島根県(環境生活部)

⑦「日本風景街道」の推進

提案主旨

中海・宍道湖・大山圏域における日本風景街道活動「人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～」を県境を越えて推進する。

提案内容

- 中海・宍道湖を囲む「水辺ルート」や、寺社を結ぶ「神仏の通ひ路ルート」などを、「人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路」として登録し、NPO等の活動団体が主体となって、地域にある豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくり活動を実施。
- 風景街道ルートに案内看板やビュースポットなどの道路環境整備を実施。

取組状況

【H22～23年度】

島根県内の風景街道ルートの沿線にある「道の駅」に、風景街道ルート名大型看板、ルート地図板、ブース、ビュースポットなどを整備。

H23.3 「神々の国しまね」プロジェクトの観光案内サイン整備に位置づけ。



【H24年度】

引き続き、未整備の「道の駅」に整備を進める

今後の取組の方向

鳥取県内の整備については今後両県で調整を図る。
両県と「日本風景街道」事業に取り組んでいるNPO等の活動団体との協働・連携により、原風景を創成する運動を促し、観光の振興や、地域の活性化につなげていく。



『人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路』

主な関係主体

鳥取県西部総合事務所(県土整備局)
島根県(土木部)

その他の利活用アイデア

⑧「中海憲章(仮称)」の制定

中海を取り巻く地域が一体となって一緒に行動していくための共通の言葉「中海憲章(仮称)」を制定する。その理念や指針を実行するイベントの開催や、圏域の小学校、公民館等へ校内、館内への憲章の掲示や関連行事の実施など、活動の契機となるような取組を進める。今後、NPOなどの取り組みを支援しながら、地域が一体となった機運を醸成していく。

⑨中海ワイズユース住民活動推進プロジェクト

中海圏域の住民から、中海の賢明利用企画の提案を公募する。自然環境と調和し広く圏域住民が中海の恵みを楽しめるものであれば分野を問わない。「自ら実施部門」と「提案部門」を設け、間口を広げる。住民自身が、未来志向で楽しい企画を考え、やってみることで、中海への関心や気運を盛り上げる。今年度は両県NPOの共同体が提案した「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業を、鳥取・島根広域連携協働事業として採択し、支援している。6月にはこの事業の一つの「中海オープンウォータースイム」が開催され、後援として両県で協力・支援した。

⑩環日本海国際トライアスロン in NAKAUMI

「皆生トライアスロン」の姉妹大会として「中海トライアスロン」を創設する。「中海湖岸周遊コース」を設定して、新たな風景(江島架橋、中海大橋、風車、大山、中海等)を感じ、実際に中海を泳ぐことで水質を実感してもらう。道の駅も活用し「中海サイクリングロード」とリンクさせる。地元の盛り上がりが不可欠。

⑪環境負荷の軽減行動の指標化 ～私たちにできること～

清掃活動、藻の除去、下水道接続などのNPO等団体活動や市民生活行動が、中海の水質にプラス、マイナスの貢献している関係を解り易くするため、数値又は指標化する。学習教材やホームページに反映し、関係性の自覚と水質環境貢献行動へのやりがいを生む。

- (例) 海藻、川藻の水中からの引き上げ 100kg ⇒ ○○
生活排水が流れる側溝の清掃 100m ⇒○○○
下水道に接続 1軒 ⇒○○○ 有機農業化 1反 ⇒○○○ 等

⑫マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

ウインドサーフィン、シーカヤック、ボートなどのマリンスポーツ、釣りなどのレクリエーションエリアとして充実させる。「トレーニング」「参加」「観覧」といった活動が楽しめるエリアにするため、親水空間と設備(休憩スペース、駐車場、水道、トイレ等)を整備することを検討。

⑬ECO シップコンテスト in NAKAUMI

中海周辺には、電気関係事業や高等教育機関、エネルギー施設等、「電気」にまつわる関連事業が集積している。このことから、環境にやさしい「電気」と「水」をテーマとした、中海で利用の多い「小型船」「ボート」を対象とした開発参加型の大会を創設する(「琵琶湖の鳥人間コンテスト」に対抗)。人力発電部門、ソーラー船部門などを設けるなど趣向を凝らす。

⑭中海周遊船の運航支援

中海を両県にまたがって周遊する観光船の運航支援を、周辺自治体で連携して行うことを検討。イベント的な一定時期の限定実施、イベントとのタイアップなどの方法を検討。

⑮高等教育機関と連携した人材育成

大学と行政が連携して、中海に愛着や興味がある人などを対象に、人材育成講座、コンシェルジュ養成講座を開催する。一定期間継続して開催し、修了者には証書や称号など(『中海の達人』『中海案内人』『中海の料理人』など分野に応じて)を授与する。中海に関する「学び」を通して、受講者に生涯学習的な充実感を得ていただくとともに環境への意識を高め、地域への愛着を深めてもらい、環境活動等の場で活躍してもらう。